

豊岡市教育研修センターだより



豊岡市教育委員会 R2.7.1

No.3

豊岡市のホームページにもアップしています

豊岡市 HP→左中段「⇒教育委員会」→「⇒教育研修センター」からご覧いただけます

豊岡市小中一貫教育推進協議会 ～授業でつながる小中一貫教育の充実～

6月15日、関西学院大学教授 佐藤真先生をお迎えして、第1回の推進協議会を開催しました。佐藤先生の講義では、第2期の推進にあたり、次のようなことが重要であるとのことご指摘がありました。

- ① バランスを取りながら、学校ならではの学びを取り戻すこと。
学校がずっと「習得」「習熟」を行うのではなく、学校は協働的な学びで「活用」「探究」「知的好奇心の喚起」を全教科でバランスよくやっていくことが大事だ。
 - ② ふるさと教育では、探究の課題が大事。発表では、どういう力を伸ばすのかを明確にした探究課題の設定が特に大切。
 - ③ 試行錯誤を恐れない。できることからやっていく。例えばタブレットを活用し「個別・最適化」を図る。最も大事なことは子どもが何を学んだかという「振り返り」である。
 - ④ 正解のない問いを解いていくことに、慣れさせる。習慣として子どもたちに身につけていくこと。話し合わせるだけではだめ。比較、分類、類型、関連付けなど考え方を定着させることは不可欠だ。
- ★今年度できることから取り組み、2月の第2回推進協議会でその成果と課題を共有します。



学力向上に係る学習会(算数・数学) ～子どもの事実に学ぶ算数・数学の授業づくり～

6月26日、京都女子大学教授 坂井武司先生をお迎えして、学習会を開催しました。

コロナ禍の影響が学校教育にもじわじわと現れる中で、授業づくりのヒントをいただきました。

- ① 予習と授業を関連付ける。今日学ぶことが分かっている、知っている、わからないこともわかっている。授業の最初に必ず予習してきたことを自分の言葉で言語化させる。時間短縮し、後半重視型へ。
- ② 算数・数学の考え方をどう使ったか。どんな考え方をこの単元で習得、活用させるのか。既習の考えと関連付ける。考え方を使って問題が解ける。考え方の使い方になれば、良さを感じる＝「わかる」こと
- ③ 教師を介しての対話的な学びを促す。

ア: 似たような考えの子どもを複数意図的指名。

イ: Aさんの解き方を他の子どもたちが複数、説明。

ウ: リレー形式で複数の子どもが発表したり説明したりする。

★坂井先生が何度も繰り返されたキーワードは、「見方・考え方」「関連付ける」「子どもを見る(態度、聴き方、振り返り)ことと教師の関わり」「先生が意識を変える」でした。こんな状況だからこそ、できることを探り、新たなことにも失敗を恐れずチャレンジしてみよう。子どもたちと、私たち、そして授業の可能性を広げるために。

